

第二章 東濃圏域の現状

本章においては、各種統計資料等から、東濃圏域の現状を概観する。

1. 概要

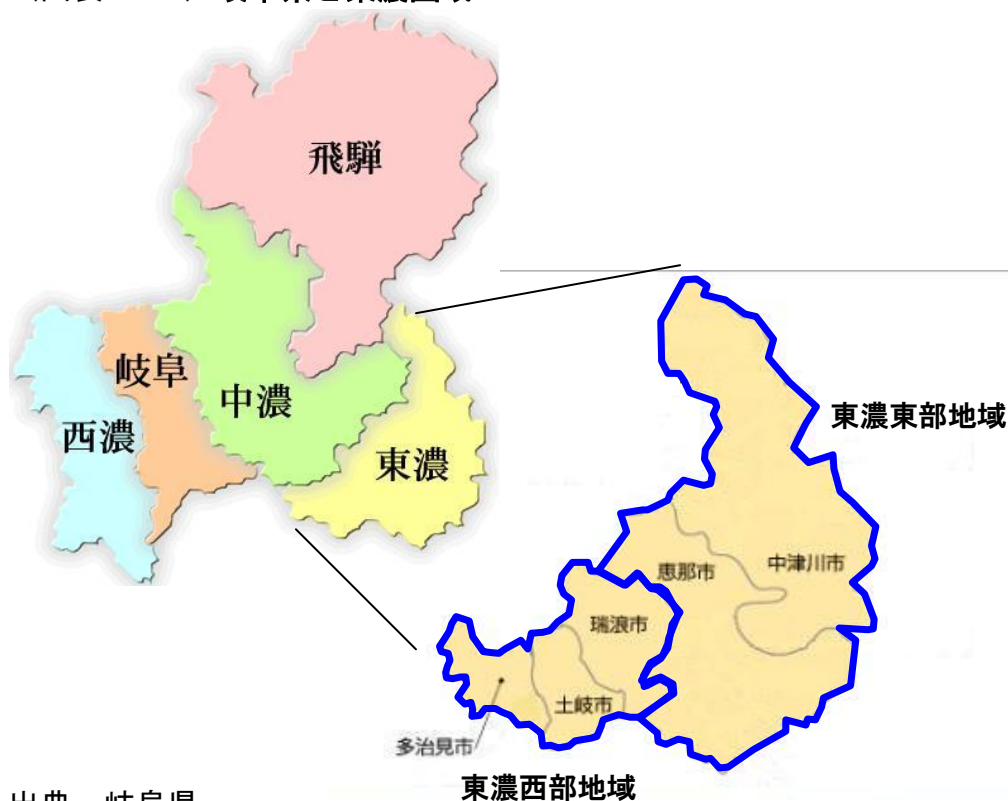
(1) 地理（位置、地盤）

東濃圏域は、南に愛知県と境を接し、土岐川沿いのなだらかな丘陵地からなる東濃西部地域 3 市（多治見市、土岐市、瑞浪市）と、南に愛知県、東に長野県と境を接し、中央部を木曾川が東西に貫流する中山間地域である東濃東部地域 2 市（恵那市、中津川市）で構成されている。

東濃圏域の幹線交通網として、東西には名古屋地域へのアクセス機能の高い JR 中央本線・中央自動車道・国道 19 号・国道 363 号が、南北には東海環状自動車道が整備されている。

今後、リニアの整備により、さらなる利便性向上が期待されている。

(図表Ⅱ-1) 岐阜県と東濃圏域



(2) 人口

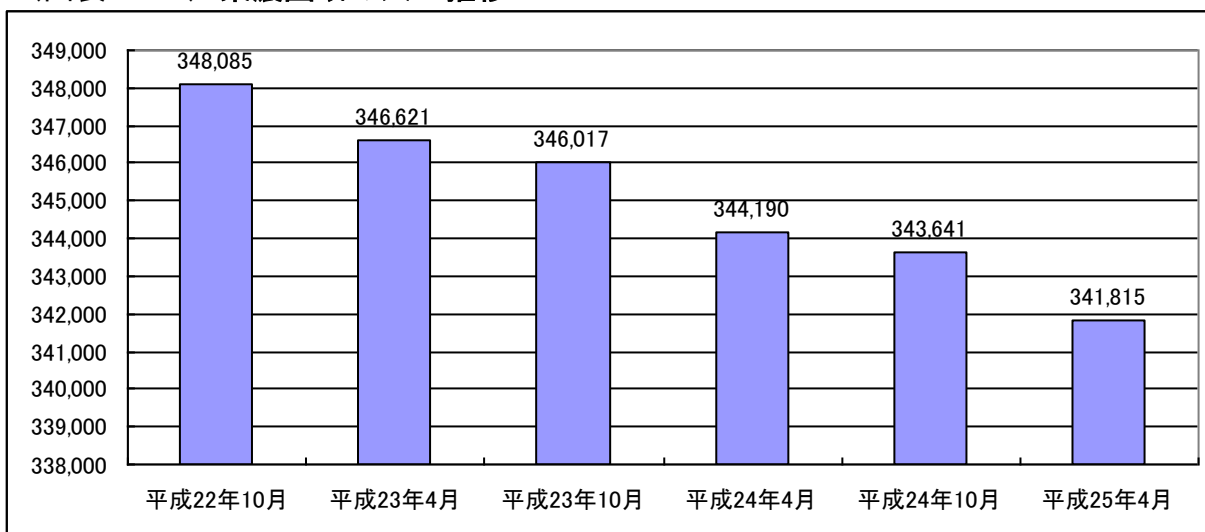
(図表Ⅱ-2) 人口、人口増減(平成17年~22年)、面積及び人口密度

	人口 (平成22年)	人口 (平成17年)	構成比(%) (平成22年)	平成17年~ 22年の人口 増減数	平成17年~ 22年の人口 増減率(%)	面積(km ²)	人口密度(1 km ² 当たり)
岐阜県	2,080,773	2,107,226	100.0	-26,453	-1.3	10,621.2	195.9
東濃圏域	348,085	358,884	16.7	-10,799	-3.1	1,562.8	222.7
多治見市	112,595	114,876	5.4	-2,281	-2.0	91.2	1,234.1
土岐市	60,475	62,102	2.9	-1,627	-2.6	116.0	521.3
瑞浪市	40,387	42,065	1.9	-1,678	-4.0	175.0	230.8
恵那市	53,718	55,761	2.6	-2,043	-3.7	504.2	106.5
中津川市	80,910	84,080	3.9	-3,170	-3.8	676.4	119.6

出典：国勢調査（平成22年）

東濃圏域の人口は、348,085人（平成22年）で、岐阜県人口（2,080,773人）の16.7%を占めている。東濃圏域では、平成17年から▲10,799人（▲3.1%）と減少しており、岐阜県の減少率（▲1.3%）を上回っている。

(図表Ⅱ-3) 東濃圏域の人口推移



出典：岐阜県「岐阜県の年齢別推計人口」

(図表Ⅱ-4) 東濃圏域の人口構成推移

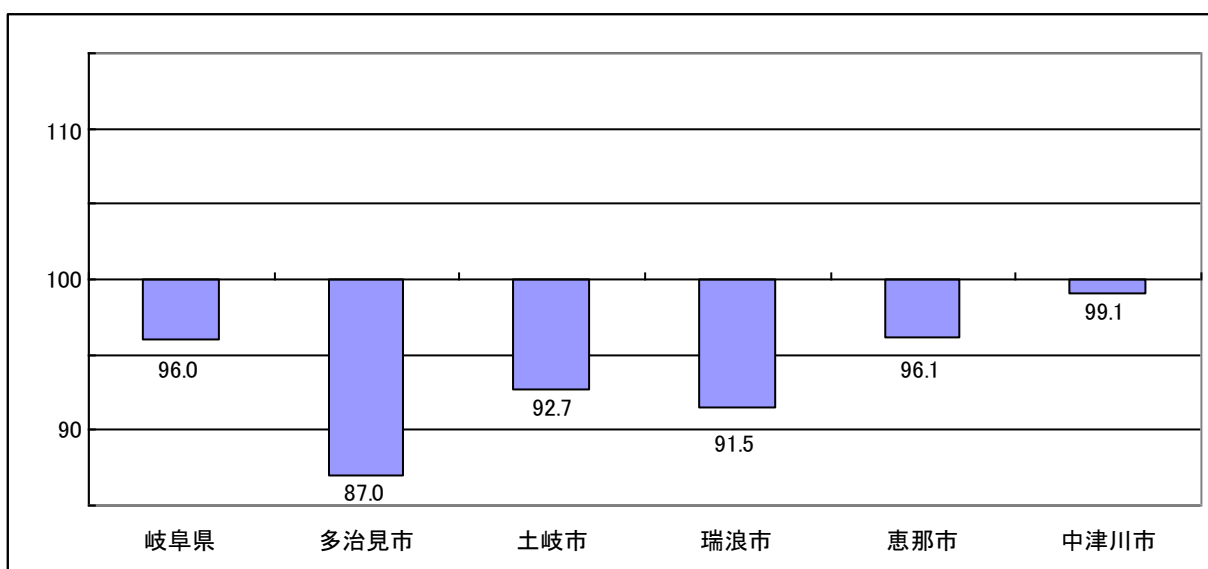
	平成22年10月	平成23年4月	平成23年10月	平成24年4月	平成24年10月	平成25年4月
0-14歳	13.3%	13.3%	13.2%	13.1%	13.1%	13.0%
15-64歳	60.4%	60.4%	60.4%	60.1%	59.7%	59.1%
65歳-	25.9%	25.9%	26.0%	26.4%	26.9%	27.5%
総数	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

出典：岐阜県「岐阜県の年齢別推計人口」

平成22年10月から平成25年4月における東濃圏域の人口推移では、348,085人（平成22年10月）から341,815人（平成25年4月）へと▲6,270人の減少がみられる。また、人口構成比は、0-14歳が13.3%（平成22年10月）から13.0%（平成25年4月）へと▲0.3ポイントの低下がみられる一方で、65歳以上が25.9%（平成22年10月）から27.5%（平成25年4月）に1.6ポイント上昇しており、高齢化が進展している。

注) 年齢3区分別人口の総数には、年齢「不詳」を含む

(図表Ⅱ-5) 常住人口100人当たりの昼間人口の割合（昼夜間人口比率）



出典：国勢調査（平成22年）

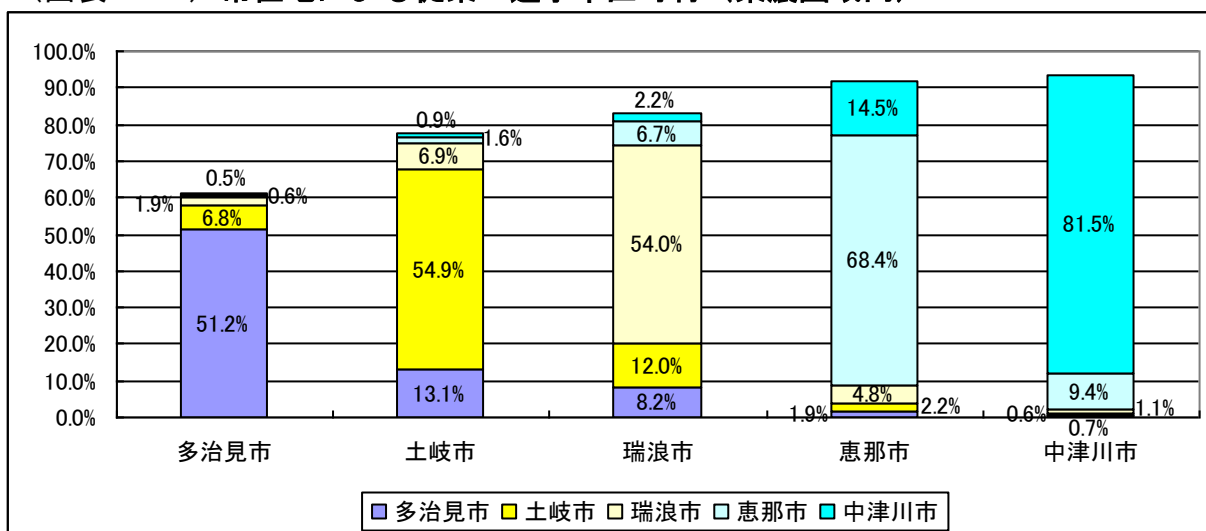
東濃圏域の昼夜間人口比率は、全ての市で100を下回っており、通勤・通学により圏域外に流出している。特に、多治見市（87.0）、土岐市（92.7）、瑞浪市（91.5）と東濃西部地域では顕著である。

(図表Ⅱ-6) 常住地による従業・通学市区町村 (15歳以上就業・通学者数)

	多治見市		土岐市		瑞浪市		恵那市		中津川市	
多治見市	30,736	51.2%	4,240	13.1%	1,746	8.2%	525	1.9%	297	0.7%
土岐市	4,071	6.8%	17,735	54.9%	2,566	12.0%	618	2.2%	246	0.6%
瑞浪市	1,161	1.9%	2,214	6.9%	11,497	54.0%	1,360	4.8%	433	1.1%
恵那市	358	0.6%	532	1.6%	1,426	6.7%	19,373	68.4%	3,869	9.4%
中津川市	284	0.5%	286	0.9%	469	2.2%	4,101	14.5%	33,383	81.5%
(東濃圏域計)	36,610	61.0%	25,007	77.4%	17,704	83.1%	25,977	91.7%	38,228	93.3%
中濃圏域	4,989	8.3%	1,498	4.6%	617	2.9%	196	0.7%	224	0.5%
岐阜県その他	584	1.0%	183	0.6%	99	0.5%	121	0.4%	367	0.9%
名古屋市	8,842	14.7%	2,943	9.1%	1,609	7.6%	1,139	4.0%	1,127	2.8%
春日井市	3,496	5.8%	948	2.9%	434	2.0%	202	0.7%	204	0.5%
愛知県その他	5,224	8.7%	1,649	5.1%	770	3.6%	663	2.3%	297	0.7%
その他	266	0.4%	85	0.3%	62	0.3%	39	0.1%	531	1.3%
東濃圏域外計	23,401	39.0%	7,306	22.6%	3,591	16.9%	2,360	8.3%	2,750	6.7%

出典：国勢調査（平成22年）

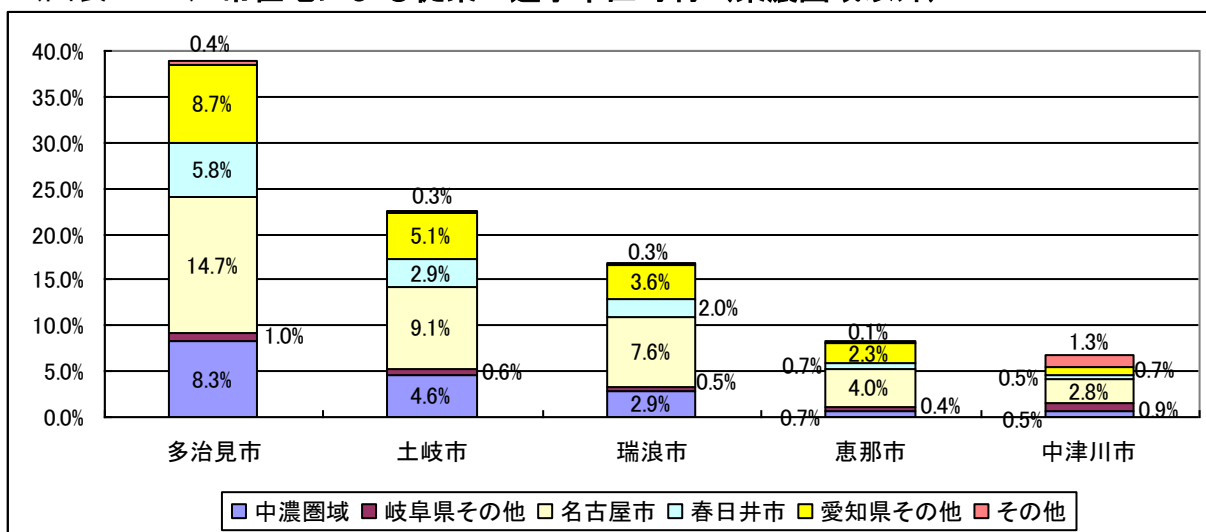
(図表Ⅱ-7) 常住地による従業・通学市区町村 (東濃圏域内)



出典：国勢調査（平成22年）

東濃圏域の常住地による従業・通学市区町村は、いずれの市も、地元を中心に東濃圏域内の割合が高く市内での従業・通学が50%を超えている。とりわけ中津川市は市内での従業・通学が81.5%を占めており、東濃圏域内で93.3%を占めている。

(図表Ⅱ-8) 常住地による従業・通学市区町村(東濃圏域以外)



出典：国勢調査(平成22年)

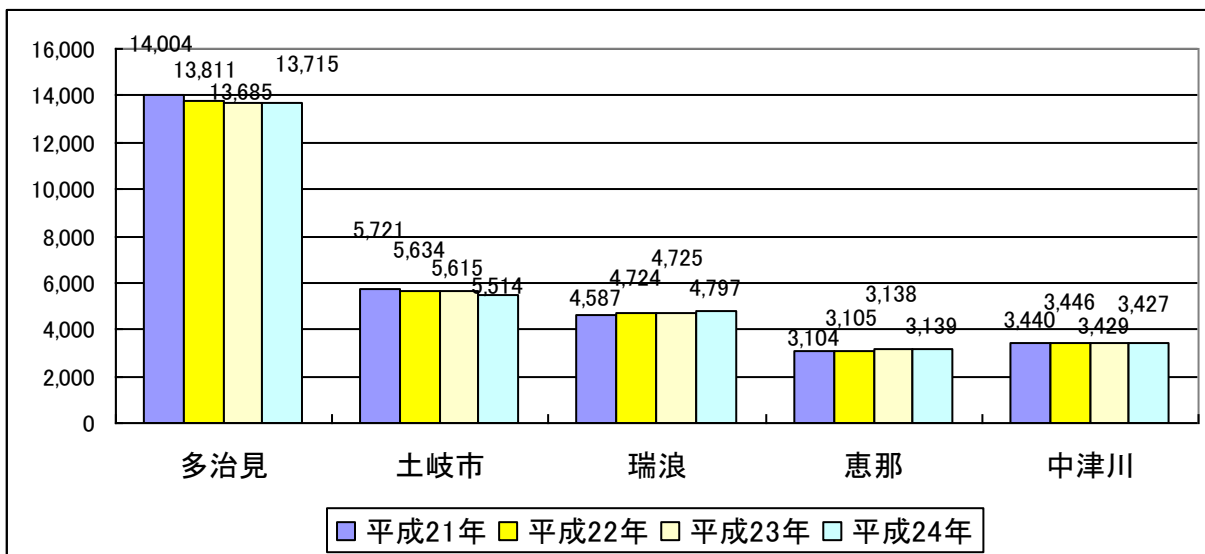
特記事項(東濃圏域以外)

多治見市	名古屋市 8,842 人、可児市 3,504 人、春日井市 3,496 人、瀬戸市 1,186 人、小牧市 1,184 人、美濃加茂市 718 人、豊田市 576 人
土岐市	名古屋市 2,943 人、春日井市 948 人、可児市 870 人、豊田市 337 人、瀬戸市 336 人、御嵩町 324 人、小牧市 260 人
瑞浪市	名古屋市 1,609 人、春日井市 434 人、可児市 296 人、豊田市 212 人
恵那市	名古屋市 1,139 人、豊田市 315 人、春日井市 202 人
中津川市	名古屋市 1,127 人、長野県 472 人(内、南木曾町 292 人)、下呂市 270 人、春日井市 204 人

東濃圏域外の従業・通学市区町村は、多治見市(39.0%)、土岐市(22.6%)、瑞浪市(16.9%)、恵那市(8.3%)、中津川市(6.7%)と、東濃西部地域が高い一方で、東部ほど低い傾向が見られる。

多治見市では、名古屋市(8,842人)が圧倒的に多く、次いで隣接する可児市(3,504人)、春日井市(3,496人)が続いている。東濃圏域の他の市も東濃西部地域を中心として名古屋市や春日井市といった名古屋地域が目立つ。一方、中津川市では、長野県[472人、内、南木曾町(292人)]、下呂市(270人)も多い。

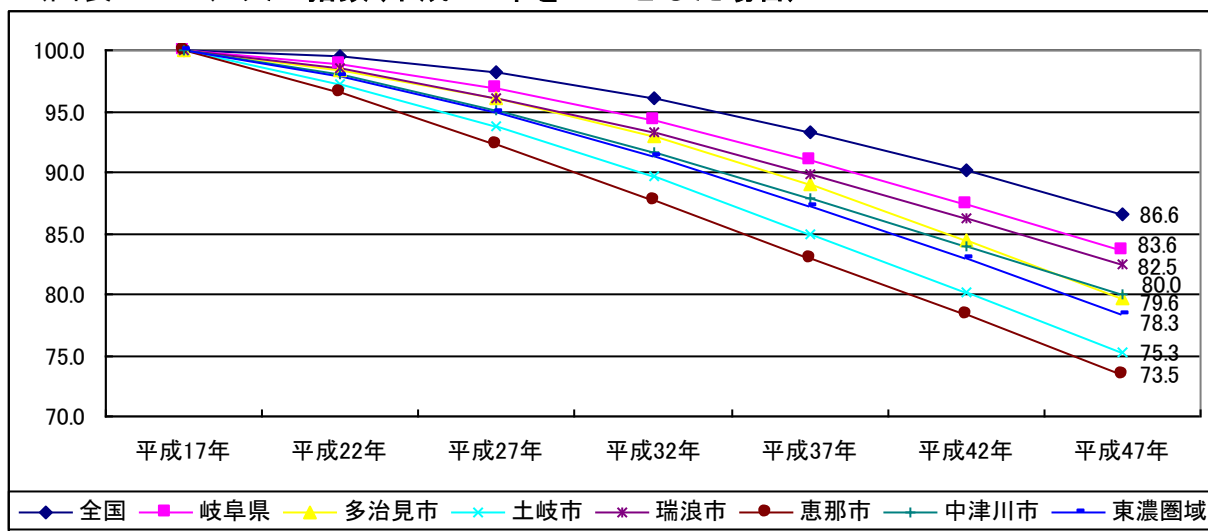
(図表Ⅱ-9) JR乗降客数(1日当たり)



出典：JR東海

平成24年のJR乗降客数(1日当たり)は、多治見駅が13,715人と最も多く、土岐市駅が5,514人、瑞浪駅が4,797人と続いている。東濃圏域には鉄道網が整備され、東濃西部地域を中心に、名古屋地域への利便性が高い。このことも常住地による従業・通学市町村として名古屋地域との結びつきが強い要因であると考えられる。

(図表Ⅱ-10) 人口指数(平成17年を100とした場合)



出典：国立社会保障人口問題研究所

東濃圏域の人口については、今後も減少が見込まれる。国立社会保障人口問題研究所による平成17年を基準（100）とした場合の平成47年の人口指数は、全国が86.6ポイント、岐阜県が83.6ポイントであるのに対して、東濃圏域は78.3ポイントと減少幅が大きい。

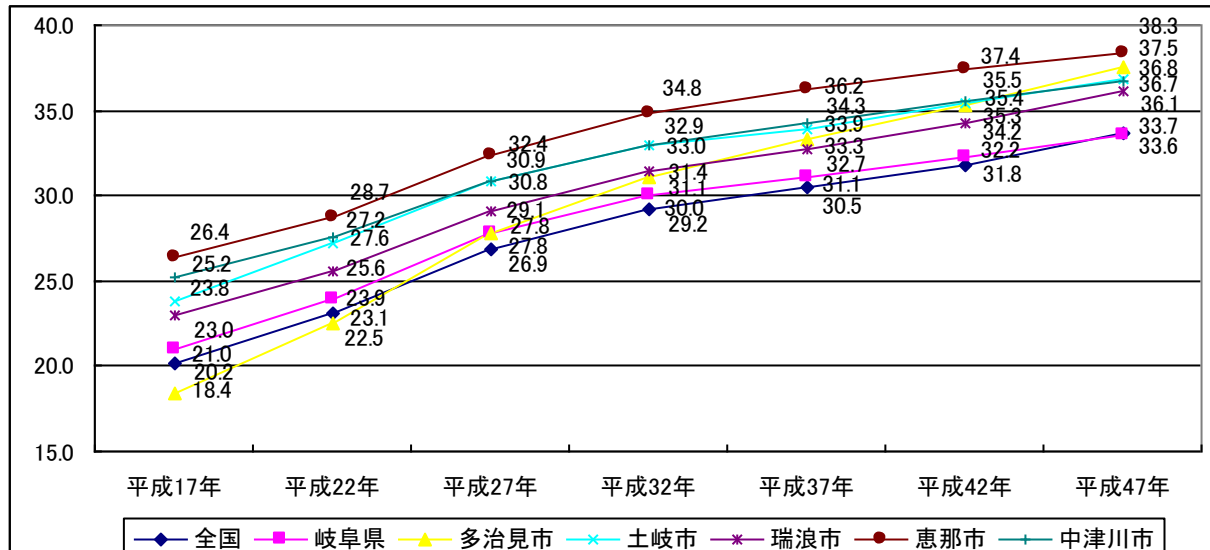
（図表Ⅱ－11）人口推計

	平成17年	平成22年	平成27年	平成32年	平成37年	平成42年	平成47年
多治見市	114,876	113,034	110,368	106,686	102,184	97,055	91,407
土岐市	62,102	60,375	58,224	55,618	52,746	49,785	46,771
瑞浪市	42,065	41,431	40,442	39,198	37,785	36,270	34,684
恵那市	55,761	53,806	51,479	48,913	46,305	43,702	41,001
中津川市	84,080	82,404	79,974	77,016	73,868	70,647	67,283
東濃圏域	358,884	351,050	340,487	327,431	312,888	297,459	281,146

出典：国立社会保障人口問題研究所

東濃圏域の人口は、平成47年には281,146人と推計され、平成17年と比較して▲77,738人と減少が見込まれる。

（図表Ⅱ－12）65歳以上人口割合の推計

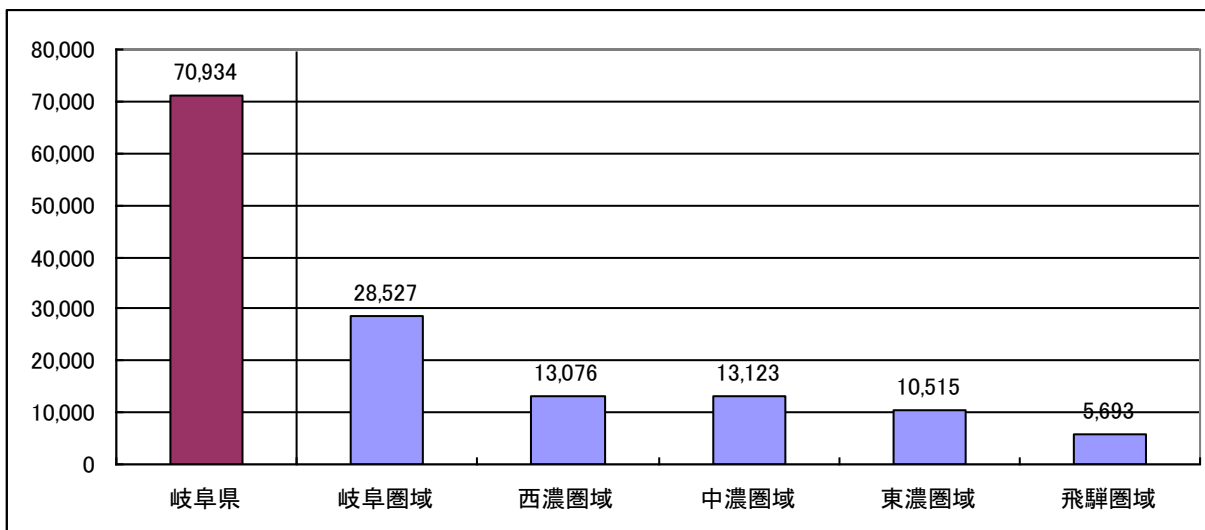


出典：国立社会保障人口問題研究所

65歳以上人口割合は、平成47年まで上昇して推移することが見込まれる。全国の65歳以上人口割合は33.7%（平成47年）が見込まれているが、東濃圏域の各市では、恵那市（38.3%）、多治見市（37.5%）など、いずれも全国を上回り、高齢化の進展が見込まれる。

2. 産業全般

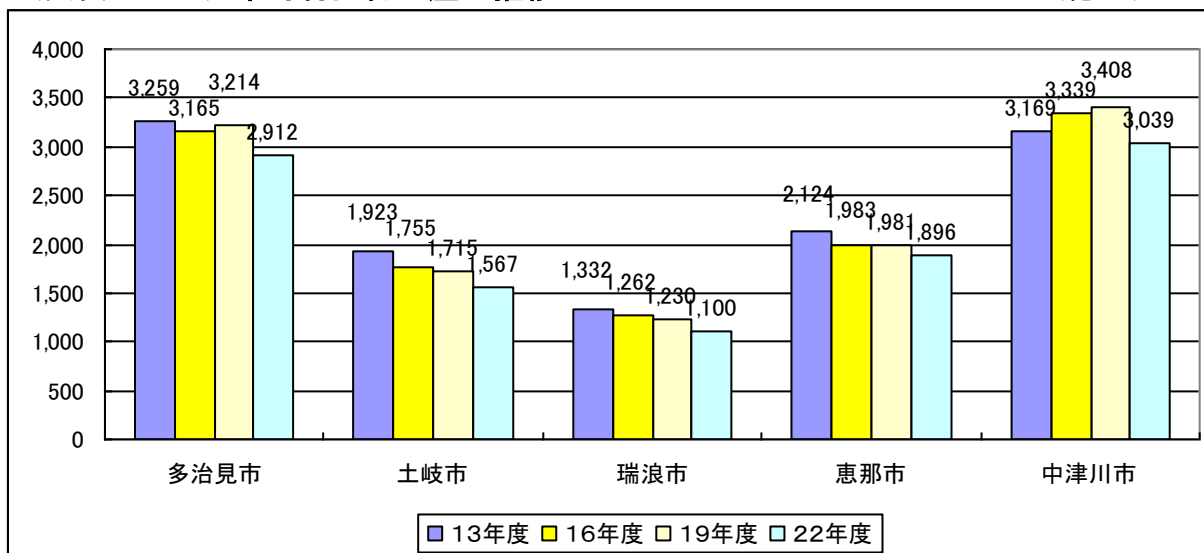
(図表Ⅱ-13) 域内総生産 (億円)



出典：平成 22 年度市町村民経済計算結果

東濃圏域の域内総生産（平成 22 年度）は 10,515 億円で岐阜県の 14.8%を占めている。岐阜県の中では、岐阜圏域（28,527 億円）、中濃圏域（13,123 億円）、西濃圏域（13,076 億円）に次ぐ水準である。

(図表Ⅱ-14) 市町村内総生産の推移 (億円)

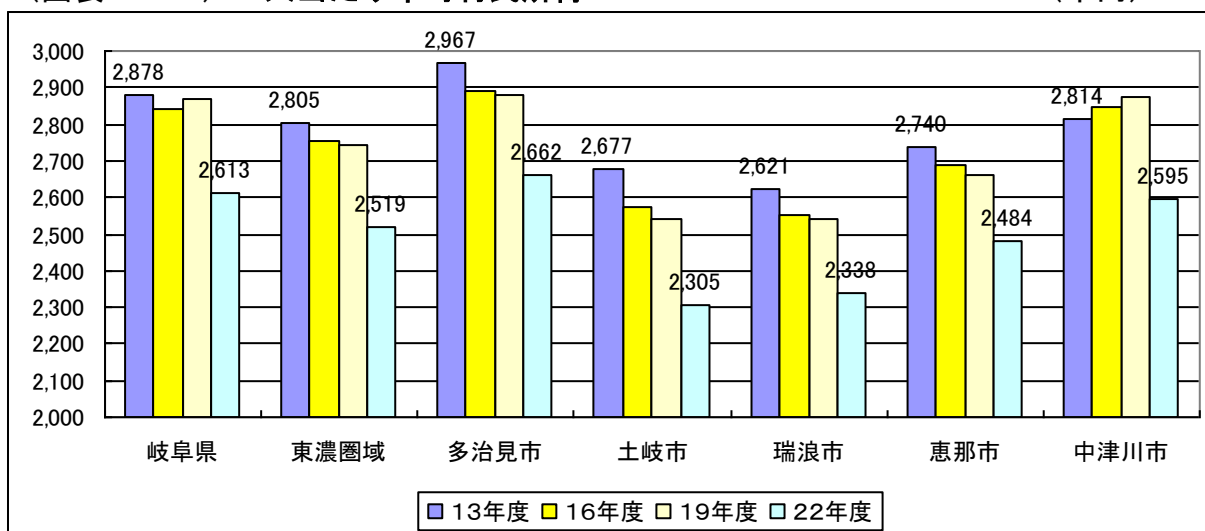


出典：平成 22 年度市町村民経済計算結果

東濃圏域各市の平成 22 年度の市町村内総生産は、中津川市（3,039 億円）が最も多く、次いで多治見市（2,912 億円）、恵那市（1,896 億円）、土岐市（1,567 億円）、瑞浪市（1,100 億円）の順となっている。

平成 13 年度から平成 22 年度の推移では、中津川市の減少幅（▲4.1%）は比較的小さいが、土岐市（▲18.5%）、瑞浪市（▲17.4%）、恵那市（▲10.7%）、多治見市（▲10.6%）は二桁の減少となっている。

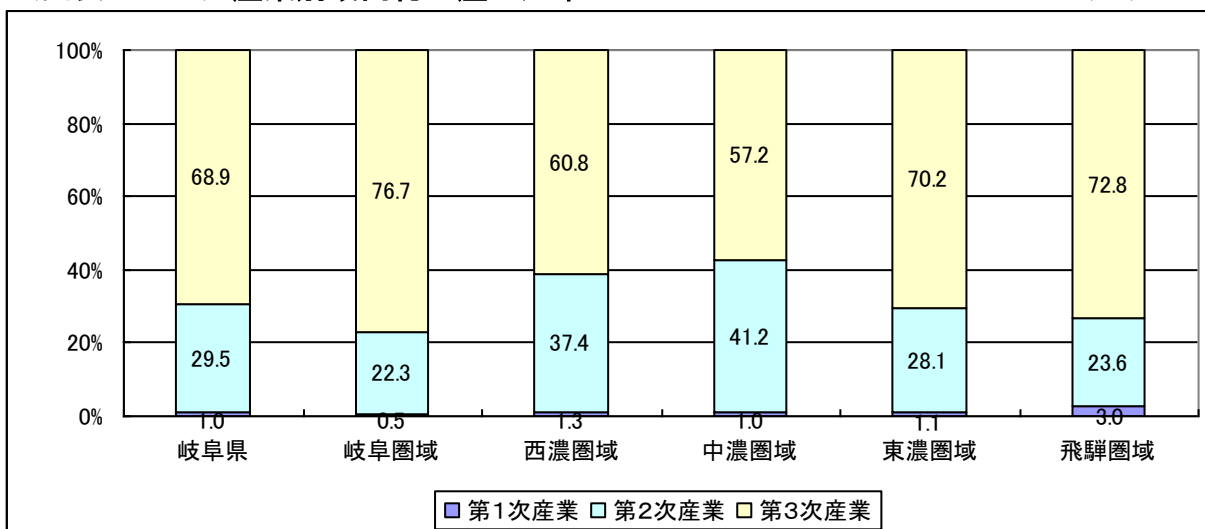
（図表Ⅱ－15） 1人当たり市町村民所得 (千円)



出典：平成 22 年度市町村民経済計算結果

東濃圏域の一人当たり市町村民所得(平成 22 年)は 2,519 千円で、岐阜県 2,613 千円と比較し▲94 千円と、県平均を下回っている。岐阜県、東濃圏域、各市いずれも平成 13 年度から減少傾向で推移している。

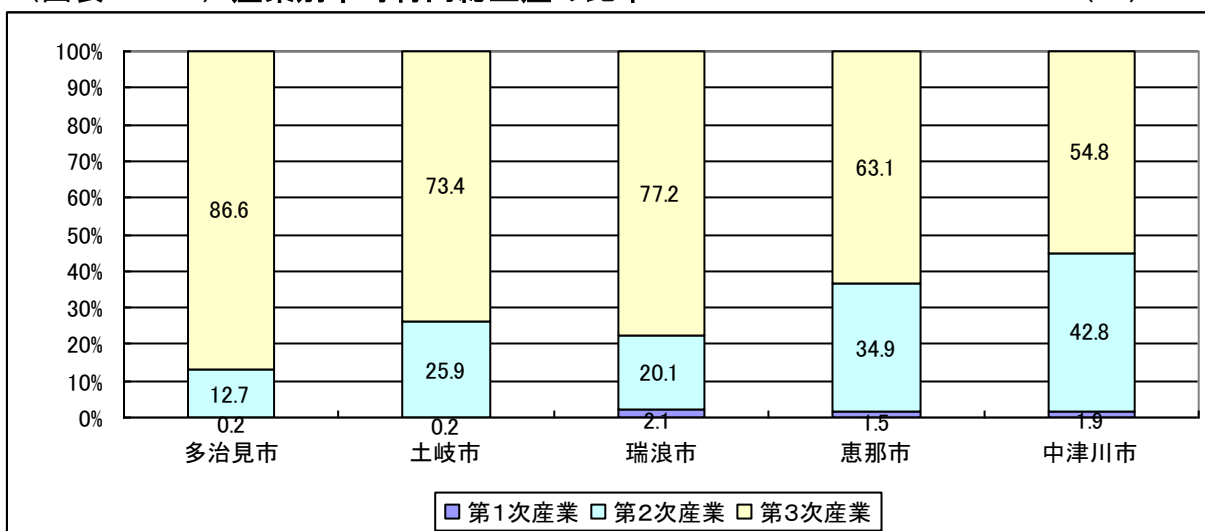
(図表Ⅱ-16) 産業別域内総生産の比率 (%)



出典：平成22年度市町村民経済計算結果

圏域別の産業別域内総生産（比率）では、東濃圏域は比較的岐阜県と似た構成となっている。但し、第1次産業が岐阜県とほぼ同程度であるのに対して、第2次産業はやや低く、第3次産業は高い。他の圏域の特徴としては、岐阜圏域、飛騨圏域は第3次産業の比率が高く、西濃圏域、中濃圏域は第2次産業の比率が高い。

(図表Ⅱ-17) 産業別市町村内総生産の比率 (%)



出典：平成22年度市町村民経済計算結果

東濃圏域の第1次産業の構成比は、瑞浪市（2.1%）、中津川市（1.9%）、恵那市（1.5%）と東濃東部地域を中心に高い。第2次産業は、東濃東部地域の中

津川市（42.8%）、恵那市（34.9%）が高い。第3次産業は、東濃西部地域の多治見市（86.6%）、瑞浪市（77.2%）、土岐市（73.4%）が高い。

（図表Ⅱ－18）平成22年度岐阜県東濃圏域の産業別構成比（%）

	岐阜県	東濃圏域	差
1. 産 業	88.1	87.8	-0.2
(1) 農 林 水 産 業	1.0	1.1	0.1
(2) 鉱 業	0.3	0.3	0.0
(3) 製 造 業	24.3	22.3	-2.0
(4) 建 設 業	5.0	5.5	0.5
(5) 電 気 ・ ガ ス ・ 水 道 業	2.4	2.5	0.2
(6) 卸 売 ・ 小 売 業	10.2	10.6	0.3
(7) 金 融 ・ 保 険 業	4.9	4.2	-0.7
(8) 不 動 産 業	12.8	13.3	0.5
(9) 運 輸 業	7.9	9.1	1.3
(10) 情 報 通 信 業	-	-	0.0
(11) サ ー ビ ス 業	19.3	18.8	-0.5
2. 政 府 サ ー ビ ス 生 産 者	9.6	10.0	0.4
(1) 電 気 ・ ガ ス ・ 水 道 業	0.8	1.2	0.3
(2) サ ー ビ ス 業	2.6	3.1	0.5
(3) 公 務	6.1	5.7	-0.4
3. 対 家 計 民 間 非 営 利 サ ー ビ ス 生 産 者	1.8	1.6	-0.2
4. 輸 入 品 に 課 さ れ る 税 ・ 関 税 等	0.5	0.5	0.0
5. 市 町 村 内 総 生 産 (=1+2+3+4)	100.0	100.0	0.0

出典：平成22年度市町村民経済計算結果

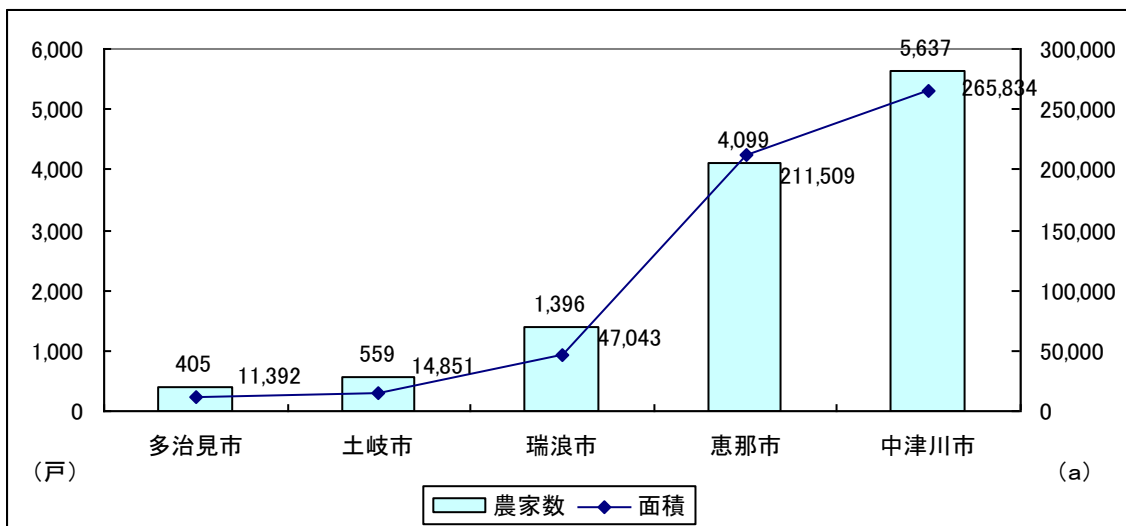
（図表Ⅱ－19）平成22年度東濃圏域各市の産業別構成比（%）

	多治見市	土岐市	瑞浪市	恵那市	中津川市
1. 産 業	87.0	87.7	88.3	87.3	88.8
(1) 農 林 水 産 業	0.2	0.2	2.1	1.5	1.9
(2) 鉱 業	0.3	0.1	0.1	0.4	0.3
(3) 製 造 業	7.2	19.0	15.5	28.4	37.1
(4) 建 設 業	5.1	6.7	4.5	6.1	5.3
(5) 電 気 ・ ガ ス ・ 水 道 業	1.9	2.5	2.0	3.2	2.8
(6) 卸 売 ・ 小 売 業	13.2	13.7	11.6	8.9	7.2
(7) 金 融 ・ 保 険 業	6.5	3.1	3.7	3.8	3.1
(8) 不 動 産 業	16.2	13.8	14.5	11.6	11.0
(9) 運 輸 業	14.6	11.0	6.9	6.9	5.2
(10) 情 報 通 信 業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
(11) サ ー ビ ス 業	21.8	17.7	27.4	16.6	14.8
2. 政 府 サ ー ビ ス 生 産 者	10.9	10.4	8.4	10.7	9.1
(1) 電 気 ・ ガ ス ・ 水 道 業	1.1	1.5	1.0	1.4	1.0
(2) サ ー ビ ス 業	2.8	4.3	2.8	3.2	2.9
(3) 公 務	7.0	4.6	4.5	6.1	5.3
3. 対 家 計 民 間 非 営 利 サ ー ビ ス 生 産 者	1.5	1.4	2.8	1.5	1.5
4. 輸 入 品 に 課 さ れ る 税 ・ 関 税 等	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
5. 市 町 村 内 総 生 産 (=1+2+3+4)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

出典：平成22年度市町村民経済計算結果

3. 農業

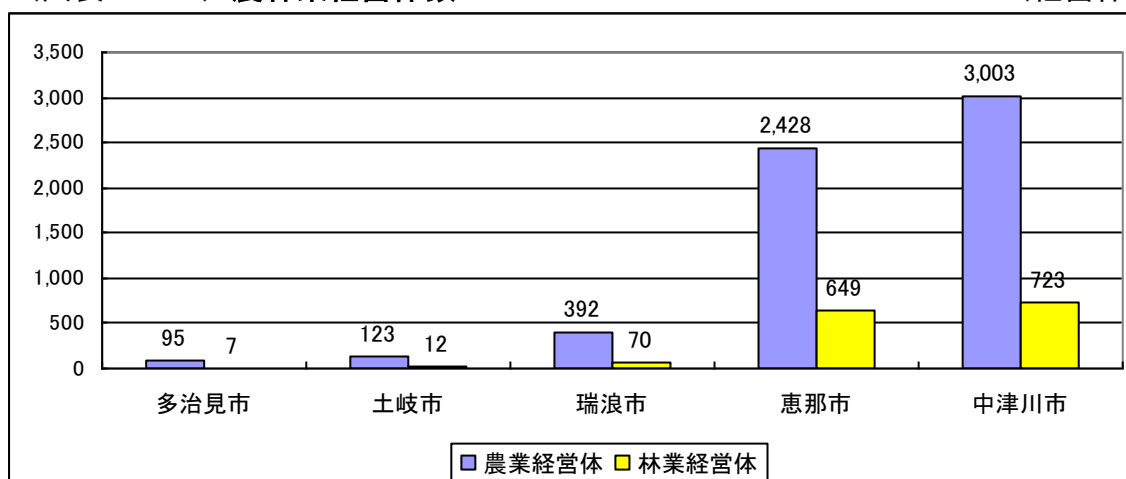
(図表Ⅱ-20) 経営耕地のある農家数と経営耕地面積 (農家数：戸、面積：a)



出典：2010年農林業センサス

東濃圏域の農林業における経営耕地のある農家数は、中津川市(5,637戸)、恵那市(4,099戸)と東濃東部地域に集中しており、多治見市(405戸)、土岐市(559戸)等、東濃西部地域は少数である。また、経営耕地面積も農家数と同様である。

(図表Ⅱ-21) 農林業経営体数 (経営体)



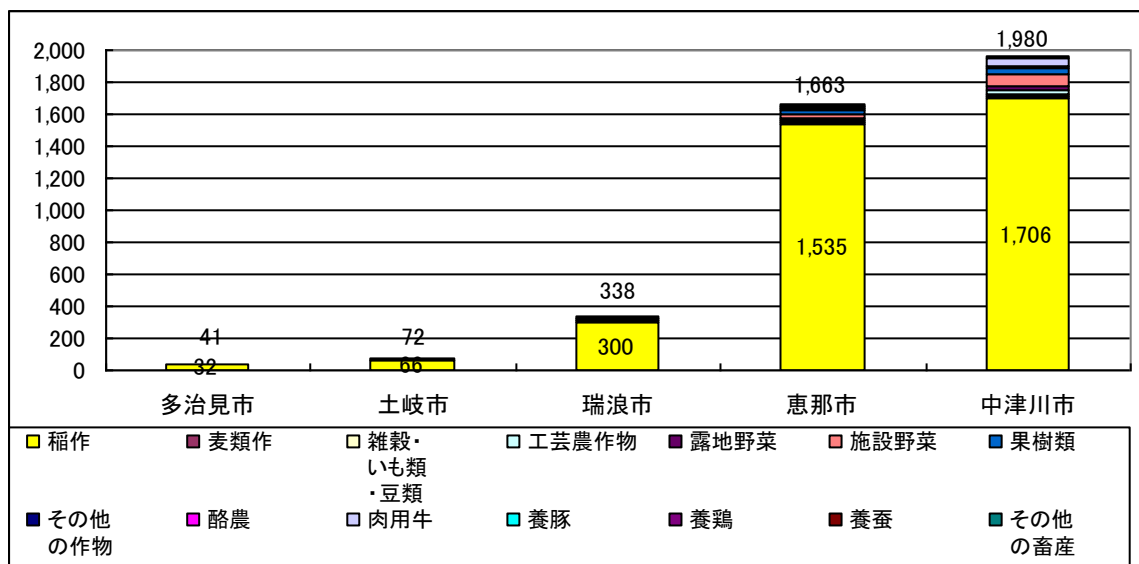
出典：2010年農林業センサス

(図表Ⅱ-22) 農業経営組織別経営体数 (経営体)

	単一経営(主位部門が80%以上の経営体)															
	計	稲作	麦類作	雑穀・ いも類・ 豆類	工芸農作物	露地野菜	施設野菜	果樹類	花き・ 花木	その他の作物	酪農	肉用牛	養豚	養鶏	養蚕	その他の畜産
多治見市	41	32	-	-	-	4	-	2	-	-	-	-	-	3	-	-
土岐市	72	66	-	-	-	1	1	-	2	-	-	-	-	1	-	1
瑞浪市	338	300	-	1	3	1	-	1	3	1	8	8	1	11	-	-
恵那市	1,663	1,535	-	11	12	15	25	21	3	4	12	11	5	9	-	-
中津川市	1,980	1,706	2	20	16	37	65	44	18	1	7	56	4	4	-	-

出典：2010年農林業センサス

(図表Ⅱ-23) 農業経営組織別経営体 (経営体)



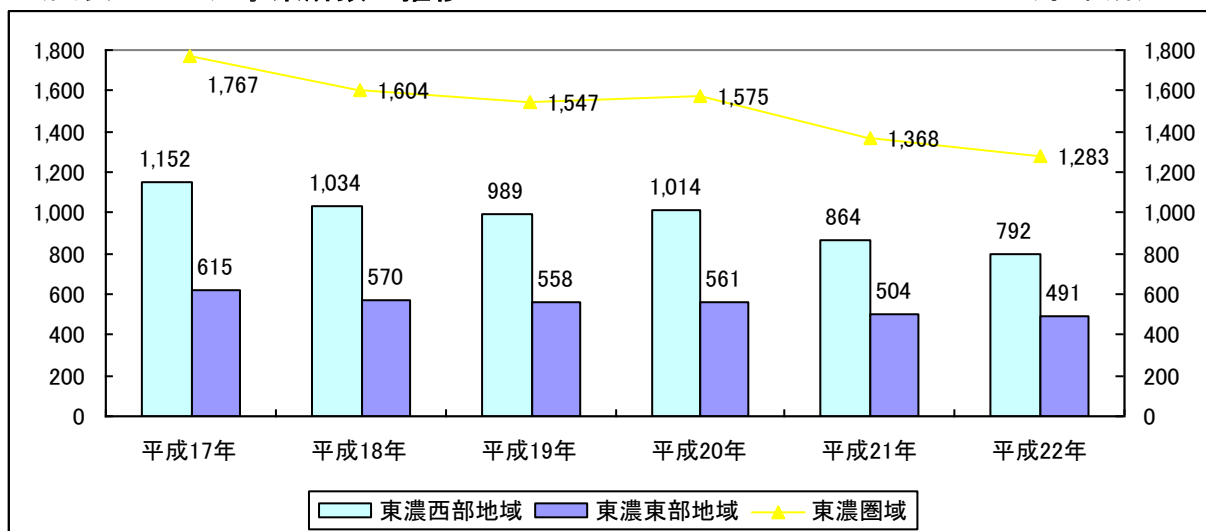
出典：2010年農林業センサス

東濃圏域の経営体数をみると、いずれの市も稲作が圧倒的多数を占めている。中津川市では、稲作以外にも、施設野菜(65)、肉用牛(56)、果樹類(44)、露地野菜(37)等が多い。恵那市では、施設野菜(25)、果樹類(21)が多い。

4. 工業

(図表Ⅱ-24) 事業所数の推移

(事業所)

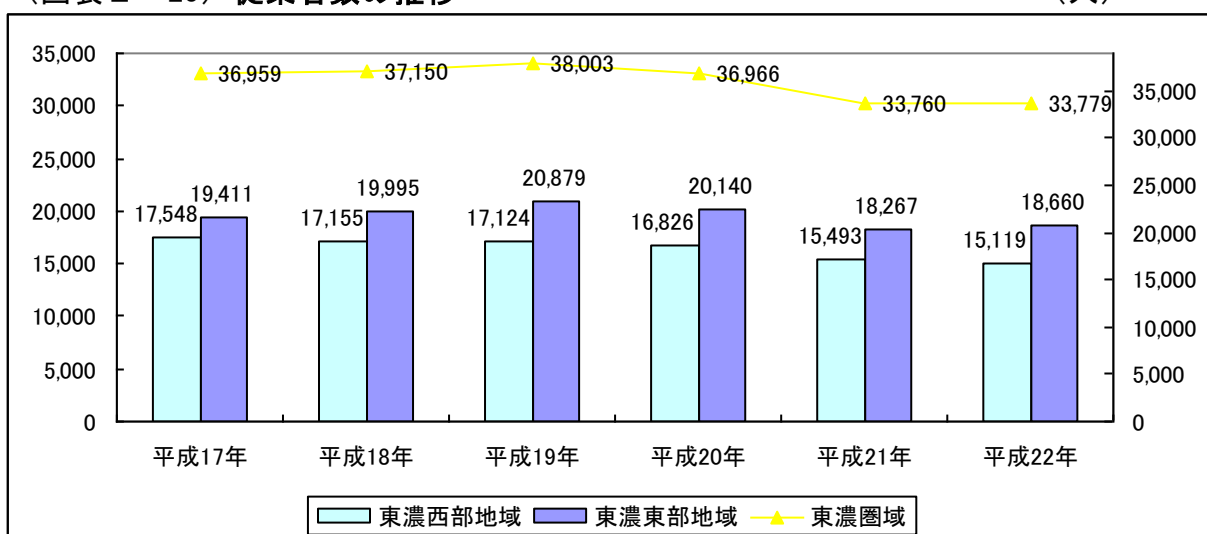


出典：工業統計

東濃圏域の事業所数は1,283社(平成22年)であり、平成17年の1,767社から▲484社(▲27.4%)と減少している。東濃西部地域は792社、東濃東部地域は491社であるが、平成17年からの推移では、東濃西部地域▲360社(▲31.25%)、東濃東部地域▲124社(▲20.2%)と東濃西部地域の減少幅が大きい。

(図表Ⅱ-25) 従業者数の推移

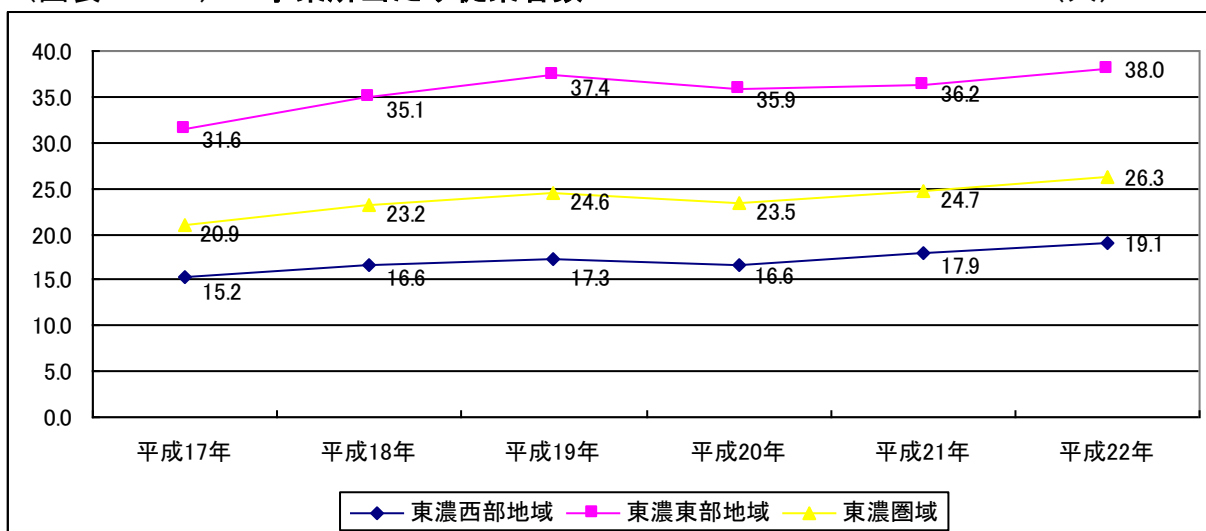
(人)



出典：工業統計

一方、東濃圏域の従業者数は33,779人(平成22年)であり、平成17年の36,959人から▲3,180人(▲8.6%)と減少している。事業所数と比較して、減少幅が小さい。東濃西部地域は15,119人、東濃東部地域は18,660人で、従業者数では東濃東部地域が3,541人上回っている。平成17年からの推移は、東濃西部地域▲2,429人(▲13.8%)、東濃東部地域▲751人(▲3.9%)であり、東濃西部地域の減少幅が大きい。

(図表Ⅱ-26) 一事業所当たり従業者数 (人)

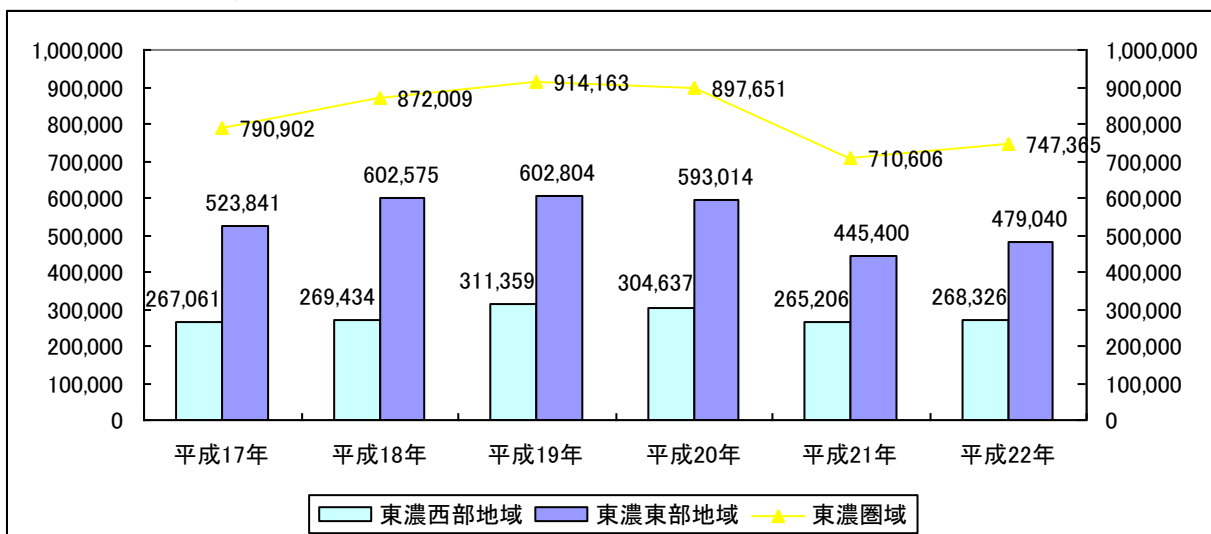


出典：工業統計

東濃圏域の一事業所当たり従業者数は26.3人(平成22年)であり、平成17年の20.9人から5.4人増加している。東濃西部地域は19.1人(平成22年)、東濃東部地域は38.0人(平成22年)となっており、東濃西部地域は比較的小規模な事業所が多く、東濃東部地域は大規模な事業所が多いことが特徴的である。

(図表Ⅱ-27) 製造品出荷額等の推移

(百万円)



出典：工業統計

東濃圏域の製造品出荷額等は7,473億円(平成22年)であり、平成17年の7,909億円から▲436億円(▲5.5%)の減少がみられる。東濃西部地域は126億円(0.5%)増加している一方、東濃東部地域は▲448億円(▲8.6%)と減少している。

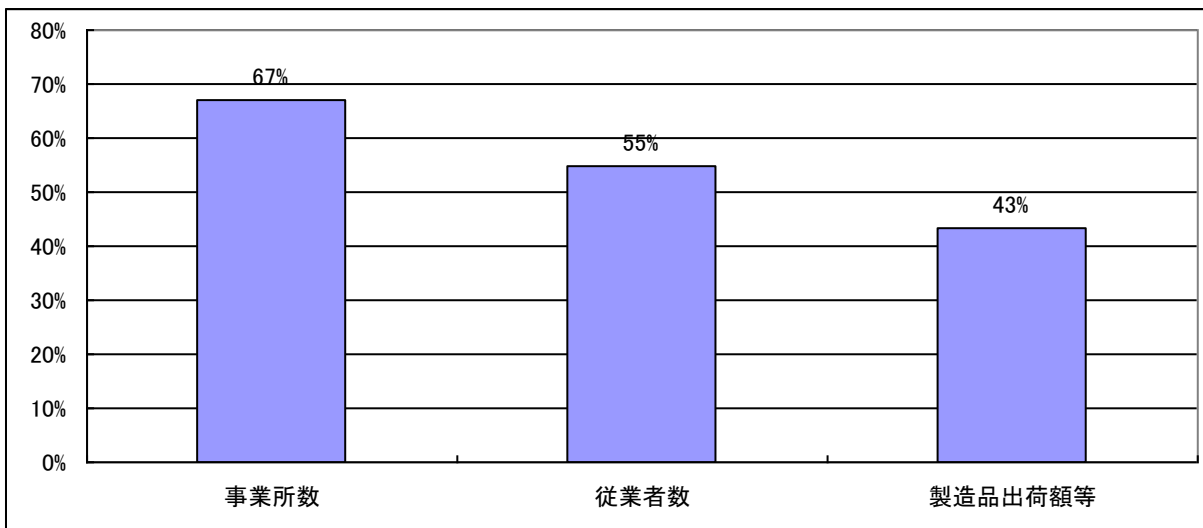
(図表Ⅱ-28) 東濃圏域の工業統計(2012年)の業種割合

	事業所数	従業者数	現金給与総額	原材料使用額等	製造品出荷額等	付加価値額
		人	万円	万円	万円	万円
総数	100%	100%	100%	100%	100%	100%
09 食料品製造業	6%	7%	4%	4%	4%	4%
10 飲料・たばこ・飼料製造業	1%	0%	0%	2%	1%	1%
11 繊維工業	1%	1%	0%	0%	0%	0%
12 木材・木製品製造業(家具を除く)	4%	2%	1%	1%	1%	1%
13 家具・装備品製造業	2%	1%	1%	1%	1%	1%
14 パルプ・紙・紙加工品製造業	7%	6%	7%	9%	9%	8%
15 印刷・同関連業	3%	2%	2%	1%	1%	2%
16 化学工業	1%	2%	2%	2%	2%	2%
17 石油製品・石炭製品製造業	0%	0%	0%	0%	0%	0%
18 プラスチック製品製造業(別掲を除く)	4%	7%	7%	8%	8%	8%
19 ゴム製品製造業	1%	0%	0%	1%	1%	1%
20 なめし革・同製品・毛皮製造業	0%	0%	0%	0%	0%	0%
21 窯業・土石製品製造業	45%	30%	27%	17%	19%	23%
22 鉄鋼業	0%	2%	0%	0%	0%	0%
23 非鉄金属製造業	1%	2%	2%	2%	3%	3%
24 金属製品製造業	5%	4%	5%	4%	5%	6%
25 はん用機械器具製造業	1%	2%	2%	2%	2%	2%
26 生産用機械器具製造業	5%	3%	3%	1%	2%	2%
27 業務用機械器具製造業	1%	3%	3%	7%	6%	6%
28 電子部品・デバイス・電子回路製造業	1%	3%	3%	2%	2%	2%
29 電気機械器具製造業	4%	14%	18%	23%	20%	17%
30 情報通信機械器具製造業	0%	1%	0%	0%	0%	0%
31 輸送用機械器具製造業	5%	9%	9%	8%	9%	10%
32 その他の製造業	1%	1%	1%	1%	1%	1%

出典：工業統計(2012年)

東濃圏域の工業統計の業種割合では、窯業・土石製品製造業、電気機械器具製造業の占める割合が高い。

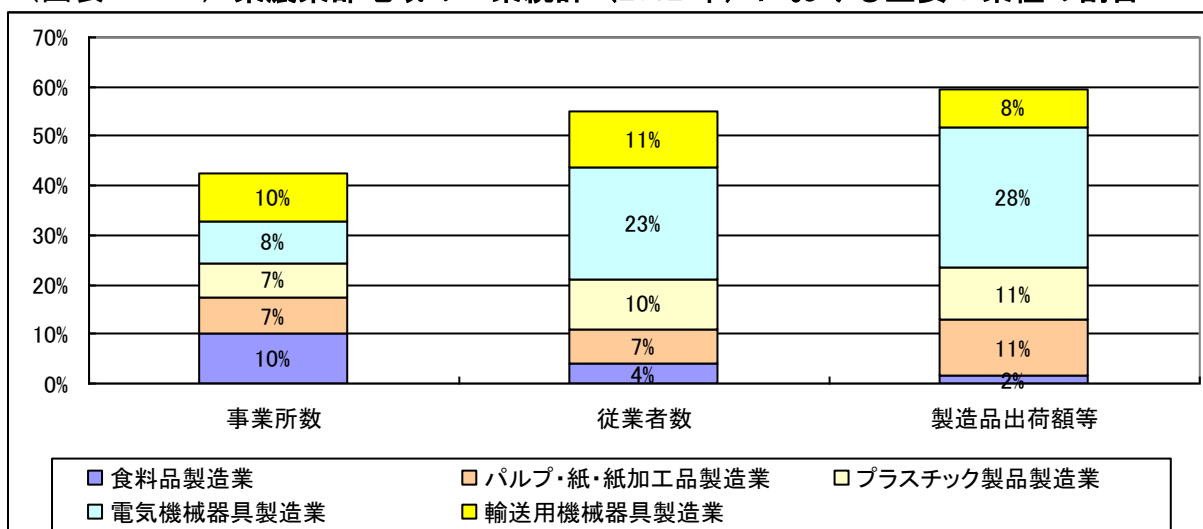
(図表Ⅱ-29) 東濃西部地域の工業統計(2012年)における窯業・土石製品製造業の業種割合



出典：工業統計

東濃西部地域では、窯業・土石製品製造業が、事業所数では67%、従業者数では55%、製造品出荷額等では43%と極めて大きなウエイトを占めている。東濃西部地域は、良質な陶土に恵まれ、全国を代表するやきものである「美濃焼」の産地としても知られている。

(図表Ⅱ-30) 東濃東部地域の工業統計(2012年)における主要5業種の割合



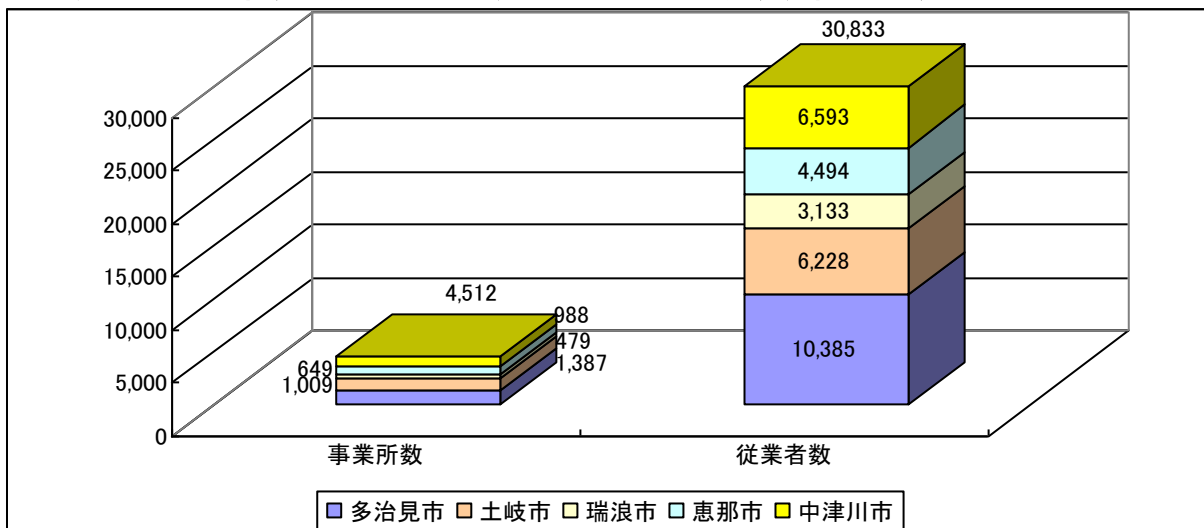
出典：工業統計

東濃東部地域では、5業種（食料品製造業、パルプ・紙・紙加工品製造業、プラスチック製品製造業、電気機械器具製造業、輸送用機械器具製造業）が、事業所数、従業者数、製造品出荷額等のいずれかで10%以上のウエイトを占めている。

特に、電気機械器具製造業は製造品出荷額等で28%、パルプ・紙・紙加工品製造業、プラスチック製品製造業はいずれも11%であり、この3業種で製造品出荷額等の5割を占めている。

5. 商業

(図表Ⅱ-31) 東濃圏域の卸売業、小売業の事業所数、従業者数



出典：平成24年経済センサス

東濃圏域の卸売業、小売業は、事業所数が4,512社、従業者数が30,833人となっている。

(図表Ⅱ-32) 小売業産業分類の推移（平成14年：平成19年）

事業所数	(事業所)			
	平成14年	平成19年	増減額	増減率
小売業計	3,942	3,617	-325	-8.2%
各種商品小売業	24	12	-12	-50.0%
織物・衣服・身の回り品小売業	538	530	-8	-1.5%
飲食料品小売業	1,330	1,146	-184	-13.8%
自動車・自転車小売業	310	286	-24	-7.7%
家具・じゅう器・機械器具小売業	432	388	-44	-10.2%
その他の小売業	1,308	1,255	-53	-4.1%

従業者数

(人)

	平成14年	平成19年	増減額	増減率
小売業計	22,607	22,438	-169	-0.7%
各種商品小売業	1,095	907	-188	-17.2%
織物・衣服・身の回り品小売業	1,651	1,921	270	16.4%
飲食料品小売業	8,470	8,670	200	2.4%
自動車・自転車小売業	2,021	1,902	-119	-5.9%
家具・じゅう器・機械器具小売業	1,754	1,580	-174	-9.9%
その他の小売業	7,616	7,458	-158	-2.1%

年間商品販売額

(万円)

	平成14年	平成19年	増減額	増減率
小売業計	37,095,410	37,546,595	451,185	1.2%
各種商品小売業	3,210,374	1,906,947	-1,303,427	-40.6%
織物・衣服・身の回り品小売業	2,263,588	2,879,862	616,274	27.2%
飲食料品小売業	10,679,761	11,425,379	745,618	7.0%
自動車・自転車小売業	5,667,183	5,207,609	-459,574	-8.1%
家具・じゅう器・機械器具小売業	3,725,357	2,948,311	-777,046	-20.9%
その他の小売業	11,549,147	13,178,487	1,629,340	14.1%

売場面積

(㎡)

	平成14年	平成19年	増減額	増減率
小売業計	437,410	468,289	30,879	7.1%
各種商品小売業	49,599	30,886	-18,713	-37.7%
織物・衣服・身の回り品小売業	56,699	75,428	18,729	33.0%
飲食料品小売業	116,395	129,677	13,282	11.4%
自動車・自転車小売業	10,726	11,578	852	7.9%
家具・じゅう器・機械器具小売業	75,485	60,560	-14,925	-19.8%
その他の小売業	128,506	160,160	31,654	24.6%

1㎡当たり売上高

(万円)

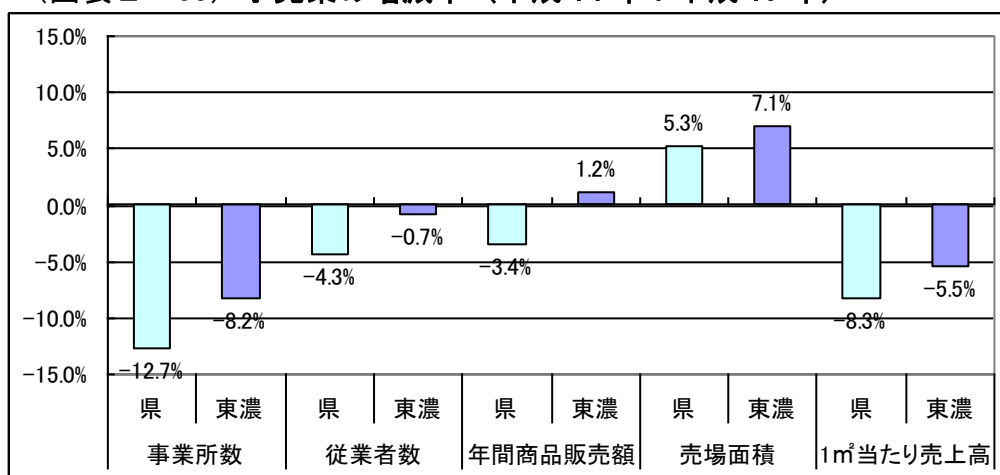
	平成14年	平成19年	増減額	増減率
小売業計	85	80	-5	-5.5%
各種商品小売業	65	62	-3	-4.6%
織物・衣服・身の回り品小売業	40	38	-2	-4.4%
飲食料品小売業	92	88	-4	-4.0%
自動車・自転車小売業	528	450	-79	-14.9%
家具・じゅう器・機械器具小売業	49	49	-1	-1.4%
その他の小売業	90	82	-8	-8.4%

出典：商業統計

小売業中分類構成比では、事業所数では、飲食料品小売業（31.7%）が最も多く、織物・衣服・身の回り品小売業（14.7%）、家具・じゅう器・機械器具小売業（10.7%）が続いている。事業所数と比較して、年間商品販売額では、自動車・自転車小売業（13.9%）のウエイトが高い一方で、織物・衣服・身の回り品小売業（7.7%）のウエイトが低い。

注）商業統計調査は平成19年まで継続的に実施されてきたが、平成21年に経済センサスが創設されたことにより、商業統計の簡易調査が廃止された。本レポートにおいては、時系列比較を商業統計（平成14年：平成19年）で行っている。

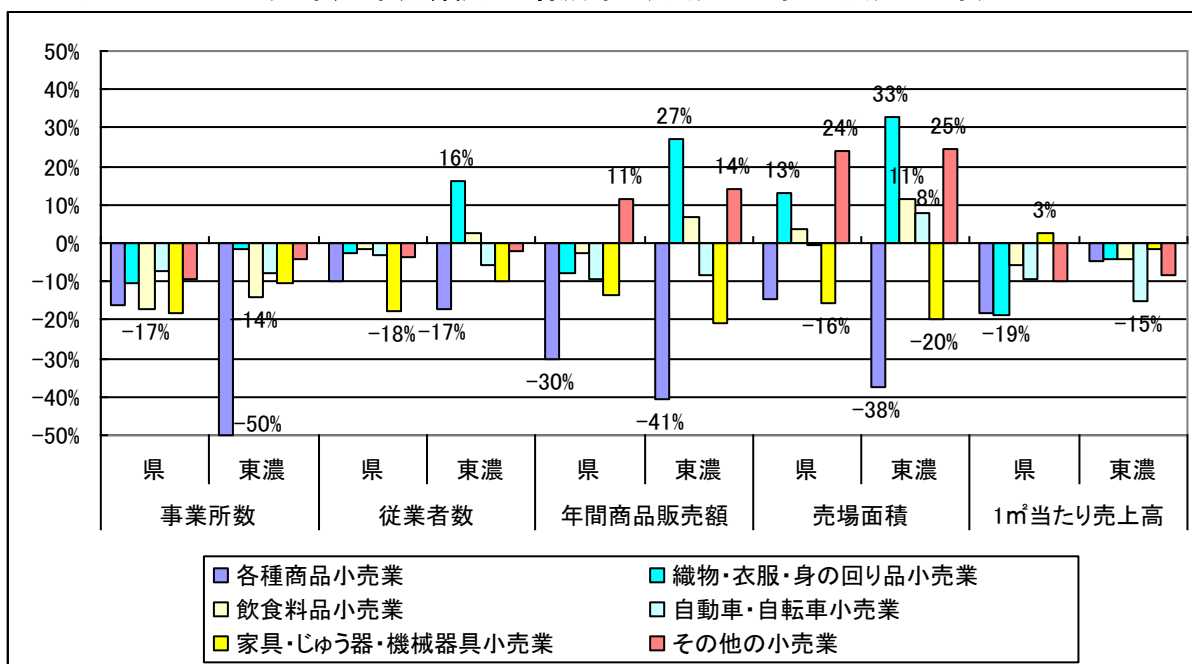
（図表Ⅱ－33）小売業の増減率（平成14年：平成19年）



出典：商業統計

平成14年から平成19年における東濃圏域の事業所数の推移では、▲8.2%と減少しているが、岐阜県の▲12.7%と比較すると落込みは小さい。従業者数は▲0.7%の微減、年間商品販売額は1.2%の増加となっている。また、売場面積は7.1%の増加となっており、店舗の大型化が進んでいる。結果として、売場効率（1㎡当たり売上高）が低下している。

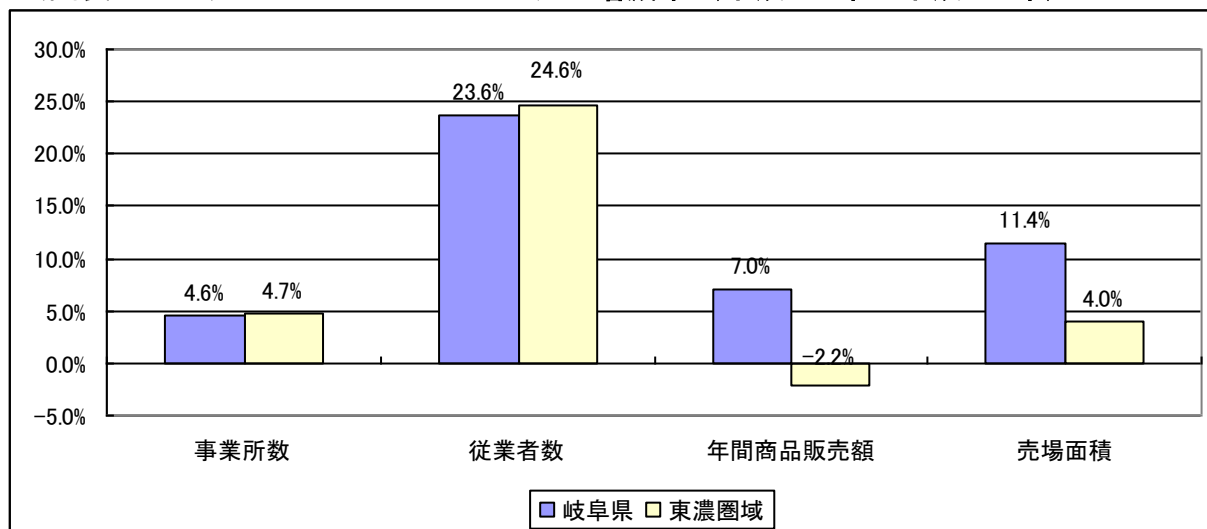
(図表Ⅱ-34) 小売業産業分類別の増減率 (平成14年:平成19年)



出典：商業統計

東濃圏域の小売業産業分類別の増減率は、いずれも各種商品小売業の落ち込みが大きい。一方、織物・衣服・身の回り品小売業、その他商品小売業は年間商品販売額が増加している。売場面積は、織物・衣服・身の回り品小売業、その他商品小売業等で増加している。1㎡当たり売上高はいずれも減少している。

(図表Ⅱ-35) コンビニエンスストアの増減率 (平成14年:平成19年)

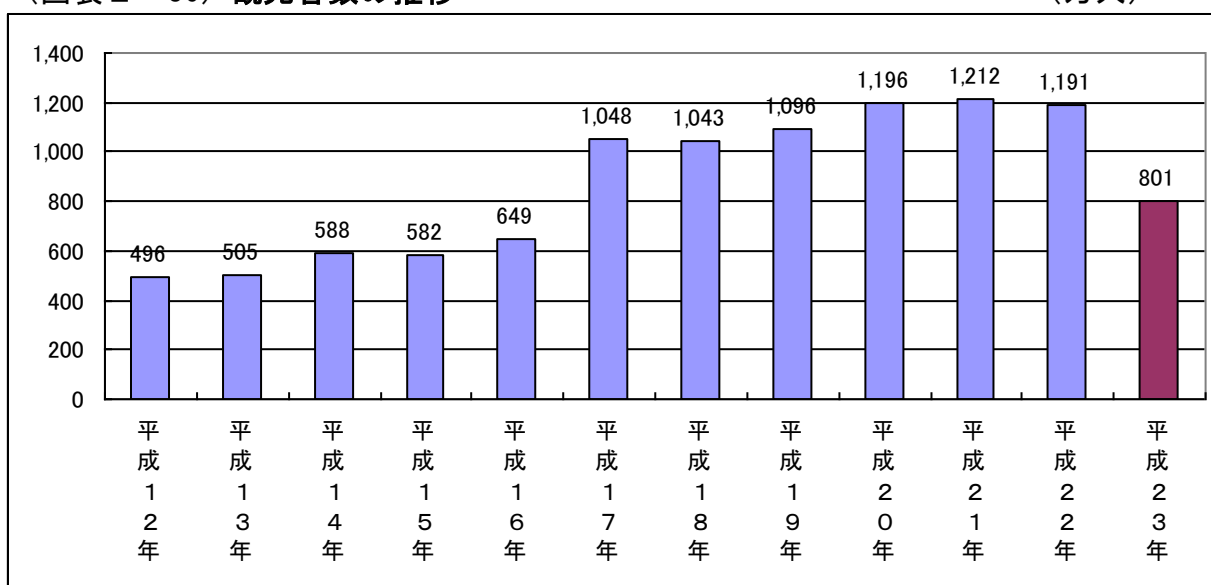


出典：商業統計

コンビニエンスストアは、事業所数が東濃圏域、岐阜県ともに増加している。東濃圏域では、特に従業者数は 24.6%増加している一方で、年間商品販売額は▲2.2%と減少している。

6. 観光

(図表Ⅱ-36) 観光客数の推移 (万人)



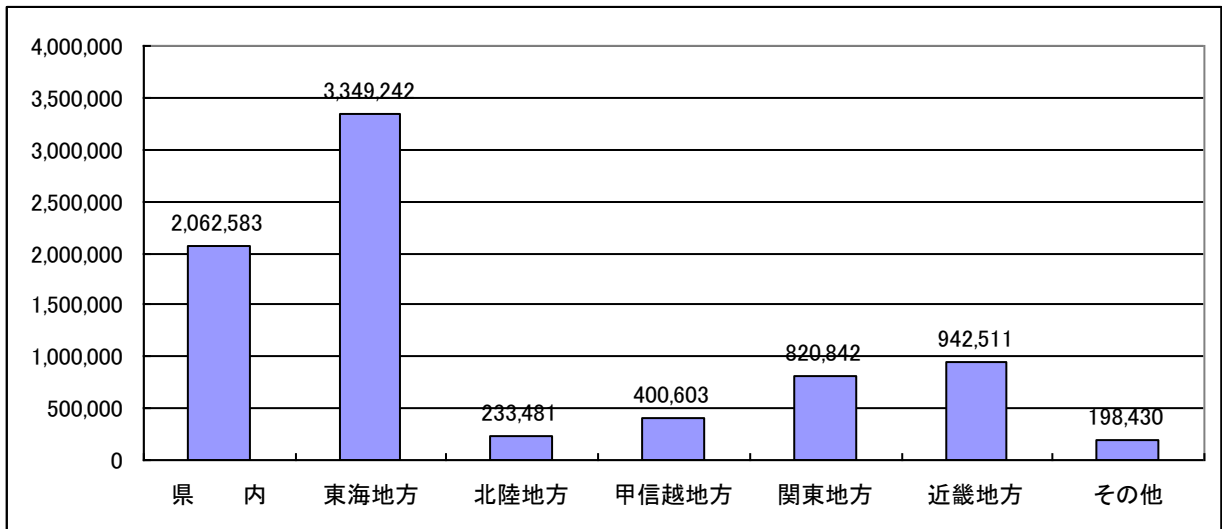
出典：岐阜県レクリエーション動態調査、岐阜県観光入込客統計調査

東濃圏域の観光客数は平成16年から平成17年に大きく増加して推移している。平成17年には土岐市に土岐プレミアム・アウトレットが開業している。

注) 平成23年分調査より、観光庁が策定した「観光入込客統計に関する共通基準」を導入しており、前年までの岐阜県観光レクリエーション動態調査とは調査手法が異なる。

(図表Ⅱ-37) 居住地別観光客数(平成23年)

(人)

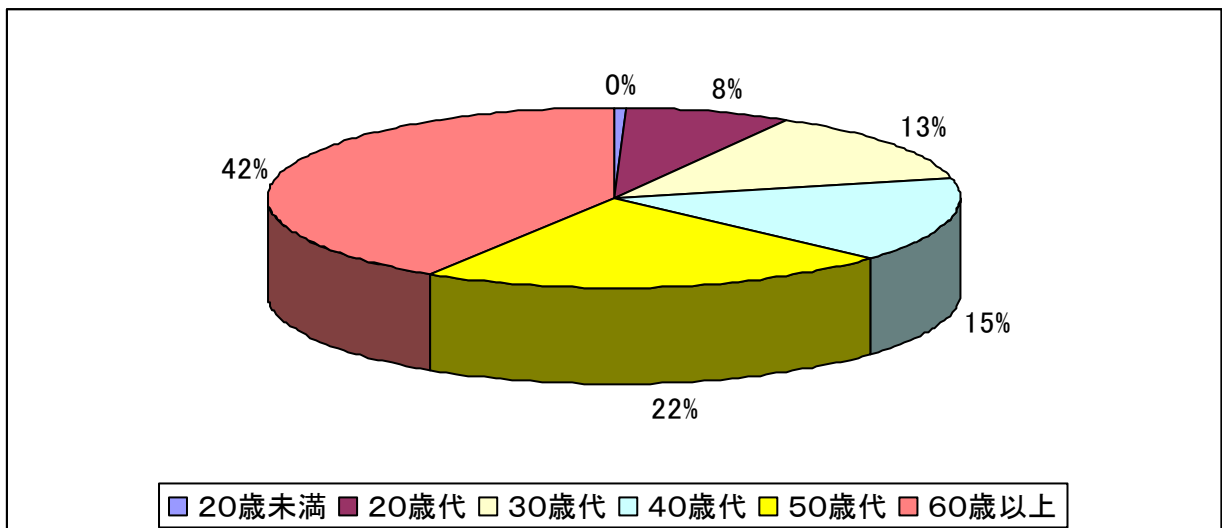


出典：岐阜県観光入込客統計調査

居住地別観光客数は、東海地方(334万人)が最も多く、次いで県内(206万人)となっている。

注) 東海地方は岐阜県を除く

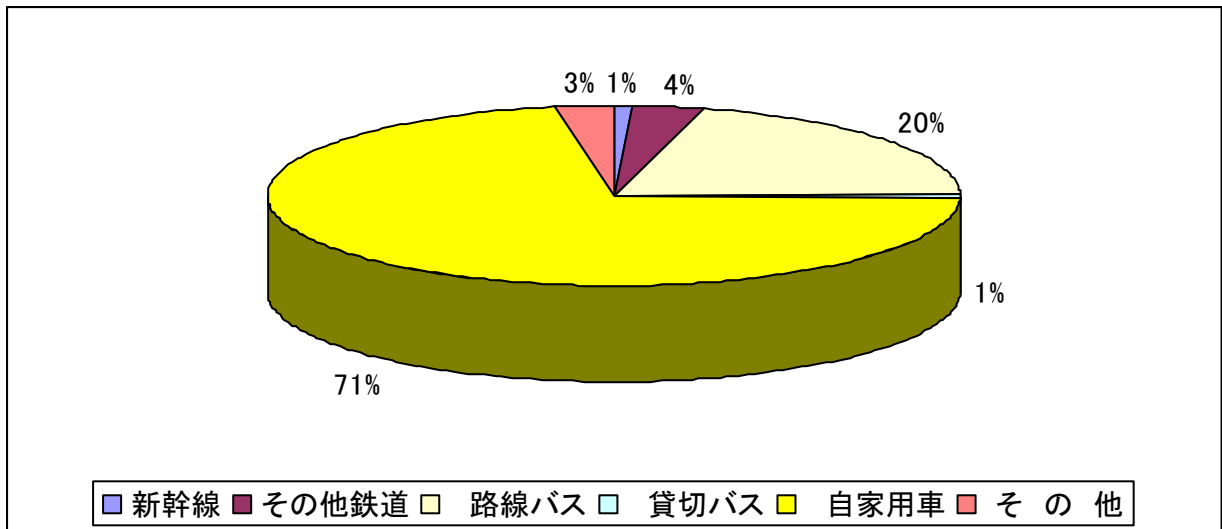
(図表Ⅱ-38) 年齢別観光客数(平成23年)



出典：岐阜県観光入込客統計調査

年齢別は、60歳以上が42%、50歳代が22%と両方で3分の2を占めている。

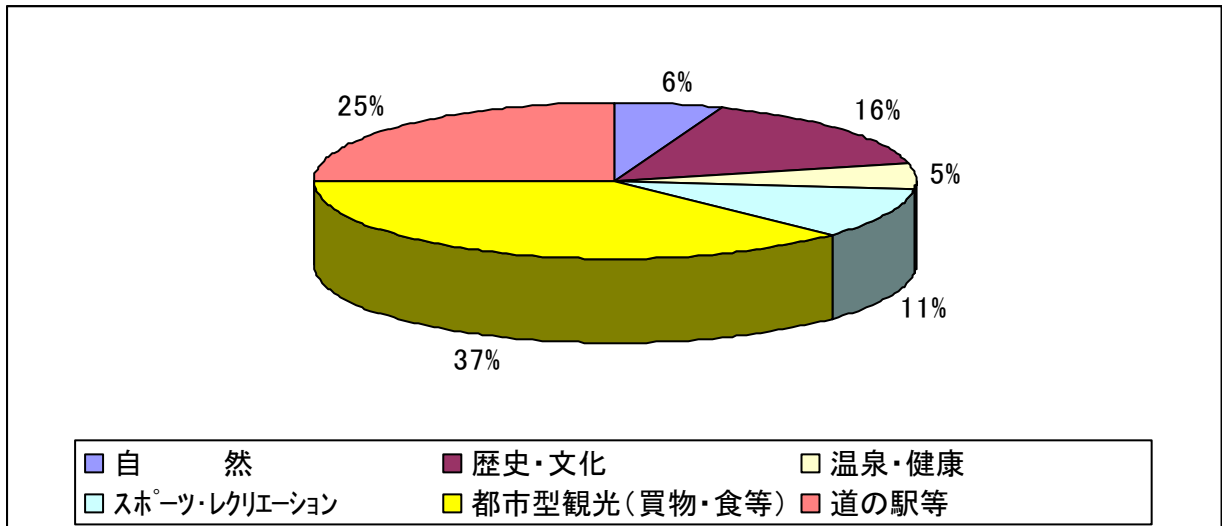
(図表Ⅱ-39) 利用交通機関別観光客割合 (平成23年)



出典：岐阜県観光入込客統計調査

利用交通機関別は、自家用車が7割を占めている。

(図表Ⅱ-40) 観光地分類別観光入込客割合 (平成23年)



出典：岐阜県観光入込客統計調査

観光地分類別は、都市型観光（買物・食等）が37%で最も多く、次いで道の駅（25%）、歴史・文化（16%）が続いている。

(図表Ⅱ-41) 観光地点別入込客数トップ20 (平成23年)

順位	観光地点	入込客数	分類
1	土岐プレミアム・アウトレット	5,315,000	都市型観光
2	道の駅 志野・織部	692,095	道の駅等
3	道の駅そばの郷らっせいみさと	669,059	道の駅等
4	道の駅おばあちゃん市・山岡	586,640	道の駅等
5	馬籠宿	523,508	歴史・文化
6	恵那峡	479,101	自然
7	セラミックパークMINO	402,630	歴史・文化
8	道の駅 どんぶり会館	389,934	道の駅等
9	中山道	326,000	歴史・文化
10	恵那銀の森	290,240	道の駅等
11	バーテンパークSOGI	272,144	温泉・健康
12	岐阜中津川ちこり村	262,728	都市型観光
13	たじみ創造館	235,699	歴史・文化
14	道の駅上矢作ラ・フォーレ福寿の里	228,523	道の駅等
15	道の駅「賤母」	179,162	道の駅等
16	道の駅「きりら坂下」	171,907	道の駅等
17	付知峡倉屋温泉	157,695	温泉・健康
18	中津川温泉クアリゾート湯舟沢	154,002	温泉・健康
19	飯高観音	149,000	歴史・文化
20	恵那峡山菜園	132,848	道の駅等

出典：岐阜県観光入込客統計調査

東濃圏域の観光地点別入込客数は、土岐プレミアム・アウトレットが531万人の圧倒的な集客力を誇っている。2位から4位までは道の駅が占めている。

○東濃圏域の観光の特徴

東濃圏域の観光産業の状況から、以下の特徴が挙げられる。

- 中高年の比率が高い
- 岐阜県を含めた東海地方からの観光客が多い
- 自家用車利用が多い
- 土岐プレミアム・アウトレットや道の駅が人気

7. 地域資源

東濃圏域は、観光資源、農林水産物、鉱工業品において、岐阜県認定の多くの地域資源を有している。

①観光資源

多治見市	岐阜県の酒蔵／オリベストリート／虎溪山／セラミックパークMINO
土岐市	岐阜県の酒蔵／元屋敷陶器窯跡／土岐市の窯元／曾木公園／土岐三国山
瑞浪市	中山道／岐阜県の酒蔵／木曾川／東濃のヒトツバタゴ自生地／東濃地方の地歌舞伎と芝居小屋／桜堂薬師／大湫宿／細久手宿／鬼岩／バサラカーニバル
恵那市	中山道／岐阜県の酒蔵／明知鉄道／木曾川／恵那峡／恵那栗農園／東濃のヒトツバタゴ自生地／根の上高原／東濃地方の地歌舞伎と芝居小屋／岩村城跡／大正村／大井宿／笠置山クライミングエリア／坂折の棚田
中津川市	中山道／岐阜県の酒蔵／明知鉄道／馬籠宿／落合宿／中津川宿／木曾川／恵那峡／付知峡／苗木城跡／恵那栗農園／東濃のヒトツバタゴ自生地／根の上高原／かしも明治座／恵那文楽／蛭川の杵振踊／東濃地方の地歌舞伎と芝居小屋

②農林水産物

多治見市	夏秋トマト
土岐市	夏秋トマト
瑞浪市	岐阜県のサルビア／夏秋トマト／みずなみのマコモタケ／半原かぼちゃ
恵那市	岐阜県のカイコ／夏秋トマト／美濃白川茶／東濃のシクラメン／恵那栗／岐阜県のぽろたん（栗）／きくいも
中津川市	岐阜県のカイコ／岐阜県のサルビア／夏秋トマト／ぎふ清流カジカ／美濃白川茶／加子母健康ミネラルトマト／あじめコショウ／東濃のシクラメン／恵那栗／岐阜県のぽろたん（栗）

③ 鉱工業品

多治見市	岐阜県の航空宇宙部品／岐阜県の紙／岐阜県の加工紙／岐阜県の紙製品／岐阜県の紙製容器／美濃筒引き本染め・手摺り捺染／岐阜県の清酒／美濃焼
土岐市	岐阜県の航空宇宙部品／岐阜県の紙／岐阜県の加工紙／岐阜県の紙製品／岐阜県の紙製容器／美濃筒引き本染め・手摺り捺染／岐阜県の清酒／美濃焼
瑞浪市	岐阜県の航空宇宙部品／美濃筒引き本染め・手摺り捺染／岐阜県の清酒／美濃焼／蛭川みかげ石／みずなみ焼
恵那市	岐阜県の航空宇宙部品／岐阜県の紙／岐阜県の加工紙／岐阜県の紙製品／岐阜県の紙製容器／美濃筒引き本染め・手摺り捺染／岐阜県の清酒／美濃白川茶／東濃の木工製品／恵那ロクロ製品／蛭川みかげ石／栗きんとん／串原布ぞうり／山岡細寒天
中津川市	岐阜県の航空宇宙部品／岐阜県の紙／岐阜県の加工紙／岐阜県の紙製品／岐阜県の紙製容器／美濃筒引き本染め・手摺り捺染／岐阜県の清酒／美濃白川茶／東濃の木工製品／イ草人形／恵那ロクロ製品／恵那曲物製品／裏木曾夕森袖／蛭川みかげ石／栗きんとん／中津川の五平餅／あじめコショウ

出典：岐阜県

8. まとめ

東濃圏域の主な特性をまとめると、以下の通りである。

- ・ 東濃圏域は幹線交通網が整備されており、リニアの整備により更なる利便性向上が期待されている。
- ・ 東濃圏域の人口は減少傾向で推移し、高齢化も進展している。昼夜間人口比率は100を下回り、通勤・通学で圏域外に流出している。東濃西部地域では名古屋地域、東濃東部地域では長野県木曽地域、飛騨圏域との結びつきが強い。今後、全国平均を上回る人口減少、高齢化の進展が見込まれる。
- ・ 東濃圏域の産業別総生産の比率は、東濃西部地域では第3次産業の比率が高く、東濃東部地域では比較的第二次産業の比率が高い。
- ・ 東濃圏域の農業は東濃東部地域に集中しており、稲作が多数を占めている。
- ・ 東濃圏域の工業は、東濃西部地域では比較的小規模な事業所が多く、東濃東部地域では大規模な事業所が多い。また、東濃西部地域は窯業土石製品製造業で、東濃東部地域は食料品製造業、パルプ・紙・紙加工品製造業、プラスチック製品製造業、電気機械器具製造業、輸送用機械器具製造業で、事業所数、従業者数、製造品出荷額等の割合が高い。
- ・ 東濃圏域の商業は店舗の大型化が進展し売場面積が増加する一方で、売場効率が低下している。
- ・ 東濃圏域の観光客数は土岐プレミアム・アウトレットの開業（平成17年）と共に大きく増加している。また、道の駅の集客力が高い。
- ・ 東濃圏域は観光、農林水産物、鉱工業品において、多くの地域資源を有している。

第三章 リニア中央新幹線の概要

JR東海は平成25年9月18日、東京・品川～名古屋間で2027年（平成39年）の開業を目指すリニアの環境影響評価（アセスメント）準備書を公表し、その中で詳細な走行ルートと中間駅の所在地を明らかにした。

上記環境影響評価（アセスメント）準備書によれば、リニアの概要は以下のとおりである。

1. 走行ルート

リニアの路線（東京・品川～名古屋間）は、東京都内の東海道新幹線品川駅を起点とし、山梨リニア実験線、山梨県甲府市付近、赤石山脈（南アルプス）中南部を経て、愛知県名古屋市内の東海道新幹線名古屋駅に至る、路線延長約286km（地上部約40km、トンネル部約246km）の区間となっている。

リニア中間駅については、神奈川県内相模原市付近、山梨県甲府市付近、長野県飯田市付近、岐阜県中津川市付近の4カ所に設置する計画としている。

2. 「車両基地」の設置

車両基地を以下の2か所に設置する。

- ・ 関東車両基地：神奈川県相模原市付近（約50ha）
- ・ 中部車両基地：岐阜県中津川市付近（約65ha）
（工場機能含む）

3. 最高設計速度

505キロメートル／時

参考リニア駅の位置

<ターミナル駅>

東京都 港区東海道新幹線品川駅地下

愛知県 名古屋市中村区東海道新幹線名古屋駅地下

<中間駅>

神奈川県 相模原市緑区JR橋本駅付近

山梨県 甲府市大津町付近

長野県 飯田市上郷飯沼付近

岐阜県 中津川市千旦林付近

リニアのルート

